資料３－２

スクールサポートルームを活用した不登校支援の課題について（小学校）

※令和 7 年 10 月実施、区が実施する施策等に関するアンケートの回答結果より

設問 3(1)
不登校支援に取り組むうえでどのようなことが課題となっていますか。

《回答》

＜人材・スペースの不足＞

・支援者・対応教員・空き教室の不足。

＜保護者の意識の低さ＞

・児童を登校させること・規則正しい生活を送らせることへの意識の低い保護者へのアプローチの仕方。

・連絡が全く取れなくなる保護者への対応。

＜保護者対応＞

・「児童の学校での様子」と「児童が保護者に話す学校での様子」の認識に差異がある保護者への対応。

・一人一人考え方が異なる保護者への対応の使い分けが必要なことが負担。

＜学校外の要素に起因する不登校＞

・家庭環境や精神的な面など、学校以外に原因がある場合の対応。

設問 3(2)
城東区不登校支援（SSR の活用や JOTO ふらっと等）についてのご意見、ご希望がございましたらお聞かせください。

《回答》

＜人材スペースの不足＞

・支援者・対応教員・空き教室の不足により充分に活用できない。

・NPO などの外的機関による不登校支援を推進してほしい。各校への配置が難しい場合は、複数校単位で配置するなど。

・スクールカウンセラーや不登校支援員も増員してほしい。

＜支援手法の拡張＞

・JOTO ふらっとについて、個人単位ではなく、学校単位で週〇時間配置という形で、児童や家庭の状況に応じ学校主導での支援体制は構築できないか。

＜児童に関する課題＞

・JOTO ふらっとが長続きしない児童がいる。SSR にも入れない児童がいる。
要対協と重複している児童について、学校側に混乱が生じやすい。

＜保護者面からの意見＞

・事業利用までに日数が必要となるため不登校児童の保護者にとってはもう少しスピード感をもって対応していただけたらとの意見を持たれている。